

# 光市医師会報

平成4年9月号

No. 239



朝 顔

光市医師会

# 前田俊男先生御逝去



平成4年8月22日  
御逝去されました。  
謹んで哀悼の意を  
表します。

## 弔 辞

光市医師会長 福本寿雄

本日、ここに故前田俊男先生の御葬儀に臨み、謹んで御霊前に光市医師会を代表して追悼の辞を申し上げます。

生者必滅、会者常離は世のならいとは申しますが、89才迄長寿を保ち、なお矍鑠としておられた先生が急にお倒れになり、突然御逝去されたと聞き誠に痛恨の極みでございます。御家族の皆様の御心痛、御落胆は如何ばかりかと推察申し上げますと共に、先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

先生は明治36年3月に光で生をうけられ、昭和5年に慶応義塾大学医学部を卒業され、亡き元日本医師会長武見太郎先生と同窓であられたと聞いております。その後北海道小樽市立病院に勤務され、次いで北九州の戸畑で開業されました。その後軍医になられてから郷里の光にあった海軍共済病院に帰ってこられ、終戦後島田で開業されまし

た。

当時は戦争終結直後で人の心も荒んでおり、生活もまともに出来ない時代でした。昭和23年2月17日新しい医師会に生れ変わり、当時は殺伐とした世の中で医師会もまとまりが悪かったようです。しかし、先生が御自分から医師会長をかって出て、五年間医師会内部をよくまとめてこられました。

先生は非常に真面目な御性格であり、間違った事が嫌いであり、その反面心のおやさしい方でした。当時個性的な方が多い光医師会で、よくお一人でまとめてこられたものと感心しております。先生の几帳面さが、我がままな患者さんに「こわい先生」というイメージを与えた時もあったようです。しかし私共にはとてもやさしく、医師同志のトラブルがあっても、必ず先生が中に入って下さり円満にまとめられました。

又、地域医療に於ても、先生は早くから耳鼻科校医として光市内全部の小、中、高の子供達を受け持ち、精力的に健診に取り組んでこられました。この健診でも子供一人づつを熱心に時間をかけて健診され、我々を感心させられたものでした。

又、先生は県下でも有名な謡曲、仕舞の名手であり、昭和50年4月には観世流の名誉師範の称号を受けられ、光市民ホールに於て、謡曲「羽衣」を披露能として上演されました。

昨年5月12日に先生の88才米寿のお祝いを医師会員全員で致しました折は、先生はとてもお元気で長寿の秘訣などをお話して

頂きました。ほんとに昨日のように思えてなりません。

この最近御長寿だった先生方が次々と亡くなられ、長寿の会員は先生お一人となられ、我々は先生をほんとの父のように思い、頼りにしておりましたのに、今度先生を失ったことは誠に残念でなりません。

私共は先生の御意志を受けついで、今後とも地域住民の為、社会福祉の為邁進することをここにお誓い致します。

先生どうぞ安らかに眠り下さいませ。

最後に御遺族の皆様方に衷心よりお悔み申し上げ、弔辞といたします。 合掌

## 弔 辞 河 内 山 清

先日暑中見舞の葉書をいただき、「私も何とか元気でやっております」とありましたので安心しておりました。突然のご不幸に接し、涙にくれ悲しみに閉ざされております。

昨年米寿のお祝の時の元気なお姿が目に浮んで参ります。

理非曲直の面ではきびしかった先生ですが膝をたたき破顔一笑されると、その慈愛濃厚とユーモアで我々の心を和ませ、融合させ、暖かく大きく包んで下さるのでした。

私は謡が好きでした。先生は私の何十倍も謡が好きでした。私の何十倍も仕舞や能がお達者でした。当時達人で能を演ずることの出来る人は稀でした。謡といえば前田先生、前田先生といえば能楽、先生の名を知らない人はありませんでした。幼い頃父を失った私は、先生を父とも慕い師匠とも

尊敬しておりました。緊張と気苦労の多いお仕事の先生の長い人生を支えていたものは、このご趣味であったものと思います。兎角窮屈なこの世の中、この楽しみと安らぎと夢が先生の生活のオアシスであったようです。

ばらばらだった光の謡曲界を統一して今日の光観世会を作られたのは先生でした。京都から偉い先生を招いて芸の向上を計られたのも先生でした。

稽古場に開放された先生のお宅に夜遅くまでお邪魔したり、全国各地の会に連れて行って勉強させて貰ったり、言い盡せぬ程お世話になっております。前田先生について歩き廻っていた頃が一番楽しかった……。

之が今尚我々の実感です。

本当に有難うございました。しばらくのお別れですが、又お会い出来ることと思っ

ております。又一緒に、もっともっと楽しく謡ったり舞ったりして過す日のことを夢見ております。

お別れに「当麻」の一節を謡わせて頂きます。ひととき心を慰めていただければ望

外の幸せです。

「称ふれば佛も我も無かりけり  
南無釈迦佛の声ばかり  
涼しき道は頼もしや……………」  
ありがとうございました。

### ◇ 8 月 度 定 例 理 事 会 ◇

8月11日(火)午後7時半より  
於光市医師会館

#### 議題

- (1) 郡市救急医療担当理事協議会報告  
(近藤副会長)
- (2) 郡市産業保健担当理事協議会報告  
(前田理事)
- (3) 郡市会長会議、医師国保、医師連盟報告  
(福本会長)
- (4) 健保組合との協議会  
(福本会長)
- (5) 医療廃棄物改正の説明会  
(福本会長)
- (6) 平成4年4月～7月決算報告について  
(吉村理事)
- (7) 8月定例会、救急医療講演会  
(赤崎理事)
- (8) 創立50周年記念事業の件  
(福本会長)
- (9) その他  
光市医師会員と従業員との慰安旅行  
(光武理事)

#### 出席者

福本、近藤、前田、光武、市川、赤崎、吉村、藤村

### ◇ 学 術 講 演 会 ◇

日時 平成4年8月25日(火)  
PM7:00～8:30

会場 光市保健センター

演題 「最近の蘇生法の話について」

講師 山口大学医学部麻酔蘇生学教室  
講師 海江田令次先生



### ◇ 8 月 度 月 例 会 ◇

日時 平成4年8月25日(火) 午後7:00～  
場所 光市保健センター

#### 議題

- (1) 救急医療担当理事協議会
- (2) 産業保健担当理事協議会
- (3) 郡市会長会議、医師国保組合会等
- (4) 医師国保健康診断の件
- (5) 老人保健法による健康診査の件
- (6) 創立50周年記念行事の件
- (7) その他

## 新 入 会 員 紹 介



青 木 明 彦

光市立病院 泌尿器科

略歴

昭和60年4月～61年6月

山口大学泌尿器科

昭和61年7月～61年12月

周東総合病院泌尿器科

昭和62年1月～62年3月

山口大学麻酔科

平成元年7月～4年7月

小倉記念病院泌尿器科

8月1日より光市立病院泌尿器科勤務にさせていただきますことになりました。当泌尿器科はこれまで常勤医1名でありましたが、前立腺肥大症などの老年性疾患、健康診断により発見された血尿の精査等の増加、人

工透析室の増床などにより徐々に業務が煩雑化してきたため、この度2名に増員されました。また泌尿器科におきましてはこの数年間のあいだに前立腺癌、膀胱癌に対する手術法、尿路結石症の治療法は革命的進歩を遂げましたが、私自身その適応、選択についてはインフォームドコンセントを尊重し患者さんに接して行いたいと思っております。

最後にまだまだ未熟者でございますが山本第一泌尿器科医長のもと努力精進致す所でございますので医師会の諸先生方にはご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

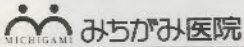
## 8 月 度 月 間 行 事 、 会 議 等

月 日	曜	行 事 ・ 会 議	場 所	出 席 者
8/6	木	産業保健担当理事協議会	山口県医師会館	前 田 昇 一
8/7	金	心電図研究会	光 市 立 病 院	11 名
8/11	火	定例理事会	光 市 医 師 会 館	8 名
8/25	火	8 月 度 医 学 講 演 会 及 び 月 例 会	光市保健センター	22 名



〈診療時間〉  
 平日 午前 9:00~12:30  
 午後 14:30~18:30  
 (ただし水曜日の午後は休診  
 土曜の午後は17:00まで)  
 日曜・祝日 休診

8月21日金 開院



〒743 山口県光市島田4丁目2-8  
 TEL (0833) 72-3532 FAX (0833) 72-1738

各位

道上文和

平成四年八月吉日

敬具

先ずは、略儀ながら書中をもって御礼かたがた開業の御挨拶を申し上げます。  
 何卒、今後とも相変わらぬ御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。  
 産科を標榜しない事は残念ですが、これからは、婦人科を中心とした地域医療に、また女性の心身の健康管理に携わっていかうと決意を新たにしています。  
 厚くお礼申し上げます。  
 この度、梅田病院を退職し、医院を開設することになりました。  
 山口大学附属病院、国立山口病院、徳山中央病院、梅田病院在職中は大変お世話になりました。

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて私儀



＝ 編集後記 ＝

トントトントトン、トントテスツテントン、私共が幼少の頃から慣れ親しんだ地踊りの拍子です。「ヤマト踊り」と言うそうです。同じ拍子でも島田地区と浅江地区ではテンポも踊り方も違う、島田はゆっくりしたテンポで外向き、浅江は速いテンポで内向きに踊ります。写真は浅江のものが年々若い人の踊りが少なくなり、踊る阿呆より見る阿呆の方が多くなっています。「医謡会でぜひ舞囃子をやりたいが笛方が居ない」と前田先生に云われたのが切掛で

笛を習いはじめて今日に至っています。お蔭様でそれまで縁のなかった謡曲を教えてくださいました。前田先生有難うございました。合掌。  
 (藤村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	福本寿雄
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社